

【訂正情報】

商品コード：110-5952

改訂6版 環境社会検定試験 e c o 検定公式テキスト

◎本書の記述において下記のような誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

【2018年4月13日現在】

刷	頁	訂正箇所	訂正前	訂正後																														
↓ 本文																																		
1	p29	(2) オゾン層の形成と生物の陸上進出 1行目～	6億年前にはオゾン層が形成されるようになりました。オゾン層は、生物に有害な紫外線を吸収し、それまで紫外線が届かない海中でしか生存できなかった生物の陸上への進出が可能となりました。	6億年前に形成がはじまったオゾン層は、4億年前に現在のようになりしました。オゾン層は、生物に有害な紫外線を吸収したので、それまで紫外線が届かない海中でしか生存できなかった生物の陸上への進出が可能となりました。																														
1～2	p35	下から4行目	～水深200m以下の深海	～水深200m以上の深海																														
1～2	p61	3 京都議定書 (1997年採択、2005年発効) 7行目	なお、2014～2020年の間の～	なお、2013～2020年の間の～																														
1～2	p97	図表3-31 1975年	「世界遺産条例」	「世界遺産条約」																														
1～2	p97	図表3-31 2010年 4行目	生態系と生物多様性の経済学(TEEB)最終報告	削除																														
1	p109	協注 ウィーン条約 8行目	ECを含む197か国が締約。	EUを含む197か国が締約。																														
1～3	p125	図表3-48	ごみ総排出量 (百万t/年)	ごみ総排出量 (万t/年)																														
1～2	p151	図表3-68 苦情件数の推移	※以下の通り差し替え	<table border="1"> <caption>苦情件数の推移 (推定値)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>苦情件数 (件)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2001</td><td>24,000</td></tr> <tr><td>2002</td><td>23,500</td></tr> <tr><td>2003</td><td>24,500</td></tr> <tr><td>2004</td><td>20,000</td></tr> <tr><td>2005</td><td>19,500</td></tr> <tr><td>2006</td><td>19,000</td></tr> <tr><td>2007</td><td>18,000</td></tr> <tr><td>2008</td><td>16,500</td></tr> <tr><td>2009</td><td>16,000</td></tr> <tr><td>2010</td><td>15,500</td></tr> <tr><td>2011</td><td>15,000</td></tr> <tr><td>2012</td><td>14,500</td></tr> <tr><td>2013</td><td>14,000</td></tr> <tr><td>2014</td><td>13,500</td></tr> </tbody> </table>	年度	苦情件数 (件)	2001	24,000	2002	23,500	2003	24,500	2004	20,000	2005	19,500	2006	19,000	2007	18,000	2008	16,500	2009	16,000	2010	15,500	2011	15,000	2012	14,500	2013	14,000	2014	13,500
年度	苦情件数 (件)																																	
2001	24,000																																	
2002	23,500																																	
2003	24,500																																	
2004	20,000																																	
2005	19,500																																	
2006	19,000																																	
2007	18,000																																	
2008	16,500																																	
2009	16,000																																	
2010	15,500																																	
2011	15,000																																	
2012	14,500																																	
2013	14,000																																	
2014	13,500																																	

【訂正情報】

商品コード：110-5952

改訂6版 環境社会検定試験 e c o 検定公式テキスト

刷	頁	訂正箇所	本書の記述	訂正後
↓ 本文				
1~2	p201	図表 5-4 生物多様性（名古屋議定書） 発効年	未発効	2014
1~2	p223	(1)運輸業のCO ₂ の排出量 4行目	49.0%、～	47.5%、～
1~2	p233	COLUMN 食品ロス削減の動き 3行目	農林水産庁で	農林水産省で
1~2	p256	1) 国及び第三者機関の取組みによる環境ラベル	エネルギースター	エネルギースター
刷	頁	訂正箇所	本書の記述	訂正後
↓ 索引				
1~2	p270	【え】	エコロジカル・フットプリント……17、23、192	エコロジカル・フットプリント……17、192
			エネルギースター	エネルギースター
1~2	p271	【く】	グリーン化特例……155	グリーン化特例……154
			グリーン新市地	グリーン新市場
1~2	p272	【し】	地盤沈下防止等対策要綱……149 の下に追加	社会企業家……250
1~2	p273	【す】	ストックホルム会議……14 の下に追加	ストックホルム条約……161
1~2	p274	【ね】	熱塩循環……34	削除
1~2	p276	【わ】	我ら共有の未来……16 の下に追加	ワンガリ・マータイ……262
1~2	p277	【じ】	J I ……61 の下に追加	J I C A ……191

【訂正情報】

商品コード：110-5952

改訂6版 環境社会検定試験 e c o 検定公式テキスト

刷	頁	訂正箇所	本書の記述	訂正後
↓ 巻末				
1	—	●本書執筆者一覧	5行目と6行目の間に追加	太田 美代 株式会社インタレスト 代表取締役
1~7	奥付	環境社会検定委員会 役員名簿	<p>※以下のとおり差し替え</p> <p>●東京商工会議所 環境社会検定委員会（敬称略・順不同）</p> <p>委員長 田畑 日出男 いであ株式会社 代表取締役会長（東京商工会議所常議員）</p> <p>顧問 柳下 正治 一般社団法人環境対策対話研究所代表理事（上智大学客員教授）</p> <p>委員 石田 隆博 日本通運株式会社 CSR部 課長</p> <p>委員 岩村 剛 株式会社バンダイ プロダクトマネジメント部 品質マネジメントチーム アシスタントマネージャー</p> <p>委員 鹿島 亨 三菱マテリアル株式会社 技術統括本部 安全・環境部 環境管理室 室長</p> <p>委員 金丸 治子 イオン株式会社 グループ環境・社会貢献部 部長</p> <p>委員 神崎 昌之 一般社団法人産業環境管理協会 製品環境部門 LCA事業推進センター 所長</p> <p>委員 神田 修二 いであ株式会社 国土環境研究所 常務執行役員 生物多様性研究センター 長</p> <p>委員 黒柳 要次 株式会社パデセア 代表取締役</p> <p>委員 小林 勝彦 東京ガス株式会社 環境部長</p> <p>委員 柴山 益男 電源開発株式会社 立地・環境部 環境室長</p> <p>委員 平野 喬 一般財団法人地球・人間環境フォーラム 専務理事</p> <p>委員 深津 学治 グリーン購入ネットワーク 事務局長</p> <p>委員 宮澤 武 一般社団法人日本能率協会 ISO研修事業部 エキスパート</p> <p>委員 間部 彰成 東京商工会議所 理事・事務局長</p>	